

● 廣告主へ御用の節は『みづみ』に見てゐる御附記を乞ふ ●

新刊

● 音樂新報、每號、神田錦町同社 ● 高等女學講義、每號、小石川水道町同社 ● 音樂月刊、每號、大坂心齋橋石原樂器店 ● 歌舞伎、每號、京橋北鞆町同發行所 ● 帝國文學、每號、小石川宮下町同會事務所 ● 日本園藝雜誌、每號、下谷上根岸同會 ● 藝苑、每號、銀座三丁目佐久良書房 ● 渡米雜誌、每號、神田三崎町渡米協會 ● 學燈、每號、日本橋丸善書店 ● 能樂、每號、麴町富士見町同館 ● 新潮、每號、牛込新小川町同社 ● 中央公論、每號、本郷西片町反省社 ● 婦人と子供、每號、京橋南大工町弘道館 ● 新公論、每號、本郷東片町同社 ● 歴史地理、每號、小石川原町同研究會 ● 心の花、每號、日本橋本石町竹柏會 ● 家庭の友、每號、本郷西片町内外出版協會 ● 文庫、每號、全上 ● 婦女新聞、每號、牛込東五軒町同社 ● 海軍、每號、麴町内幸町海光社 ● ハガキ文學、每號、小石川久堅町日本葉書會 ● 家庭樂、每號、小石川水道町高等女學會 ● 英學生、每號、神田表神保町東西社 ● 美術新報、每號、湯島切通坂町畫報社 ● 寫眞月報、每號、日本橋本町小西本店 ● 寫眞界、每號、大坂安堂寺橋筋桑田商會 ● 明治の家庭、每號、牛込納戸町同社 ● 時好、每號、日本橋三越吳服店 ● 新古文林、每號、京橋近事畫報社 ● 日本美術、每號、本郷根津同社 ● 校友會月報、每號、上野東京美術學校 ● 白百合、每號、神田三崎町純文社 ● 卯杖、每號、本郷森川町秋聲會 ● 日本のお家庭、每號、神田神保町同文館 ● 俳星、每號、羽後能代同社 ● すみれ、每號、名古屋白川町學友社 ● 手紙雜誌、每號、麴町有樂町有樂社 ● 趣味、每號、神田表神保町彩雲閣 ● 早稻田文學、每號、京橋五郎兵衛町金尾文淵堂 ● 廊清、八、長野縣飯田同社 ● 家庭女學講義、每號、小石川小日向臺町同會 ● 寫眞例題集、二十五、大坂安堂寺橋筋桑田商會 ● 東海中立新聞、每號、靜岡市同社

● 歌舞伎七十四には助六の型につき親切なる研究あり ● 藝苑第七の青春譜再讀猶飽かず ● はがき文學は不相變多數の繪畫を紹介せり ● 寫眞界は綱目スクリーンを繪にして示し ● 趣味は多方面の研究を集め ● 早稻田文學又長文の研究的文字に富む ● 家庭女學講義は眞面目なる點他に類なく ● 寫眞例題集は二十四より體裁變りて立派になれり

會告

● 學校又は同志の間に、寫生會、エハガキ會等の設けあるものは、其景況をなるべく詳しく通報せられたし ● 前項團體及び個人の作品の現物、若くは寫眞の寄贈せらるれば、優秀なるものに限り、寫眞版に付して、本誌に登載すべし但作品ははがき大に限る

● 左の事項につき廣く投書を求む

- 水彩畫に志し、最初の動機
- 始めて戶外寫生を試みし時の感
- 寫生中に起りし興味ある出來事
- 畫を學びし爲めに得たる顯著なる利益
- 其他水彩畫に關する意見報導小品文等

● 以上一切の期を定めず、半紙十行廿字詰にて、簡単に、字體明瞭に（假名は平假名に限る）に認められたし

● 繪畫及寄稿にして、本紙に登載せしもの、うち優秀なる作に對しては主任大下藤次郎の肉筆繪葉書一葉を贈るべし

● 投稿の返戻を望まらるる方は、相當の郵券を添へらるべし 但後日の請求に應ぜず

● 水彩畫に關する質問にして、一般讀者に有益と認むるものは、答を紙上に掲載すべし、但初めより返信料を添へられしものは直ちに答書を送るべし

● 眞野紀太郎氏は、遠近法に關する質問に答えらるべし 但複雑なる圖説を要するものは此限りにあらず

● 春鳥會規定入用のものは郵券二錢を添へて申込むべし